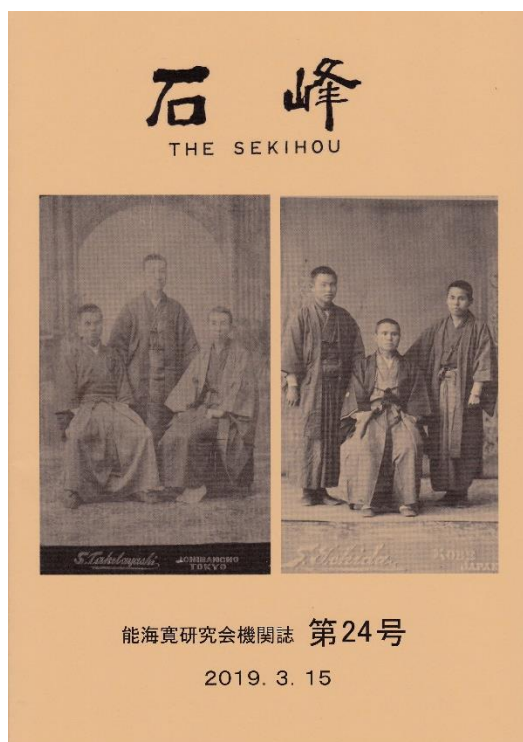


『能海寛と夢』感想文

タイトル	『能海寛と夢』感想文
著者名	浜田市立波佐小学校 5・6年生
雑誌名	能海寛研究会機関誌『石峰』 ISSN 1883-4183
号	第24号
ページ	111-116
発行年	2019.3.15
E-mail	Sekihou@hazaway.com(能海寛研究会)



能海寛生誕 150 年記念 『能海 寛と夢』感想文

—波佐小学校第3学級児童より—



11才で得度した能海 寛



【ふるさとの偉人「能海 寛」の学習から】

2018年秋、浜田市立波佐小学校第3学級(5・6年生)は、ふるさとの偉人『能海寛』の学習に取り組みました。

その集大成として、学習発表会で「能海寛と夢」と題した劇を発表された。来場者全てが感動するものであった。

今回「能海寛生誕 150年」の記念として、感想文を寄せていただいた。児童一人ひとりが能海寛の生き方を通して感じた事と、自分の夢とを照らし合わせた素晴らしい感想文である。

能海寛研究会

能海 寛と私

波佐小学校6年生 青木 心

能海寛は、日本のため、世界のために、仏教を広めようとした人だ。波佐倶楽部や寺子屋を開き、命をかけてまでチベットに行った。チベットのポタラ宮にもう少しで入られるというところで、能海は進めなくなった。ヨーロッパのスパイだと思われてしまったからだ。それでも能海はあきらめず、何かできることがないかを考えた。そして、チベットの経典を手に入れ、ほん訳して仏教を広めようとした。人のために、自分ができることを探し、取り組む能海の生き方が、私は心に残っている。そして、そんな能海を尊敬している。

私は小学校6年生になり、最後の運動会を迎えた。白組の色長とはして、応援合戦を中心になって決めなければならない。最初は自分のやりたいことばかり考えてしまっていた。だから曲決めなどで、もやめてしまうことがあった。その時は、結局ともだちが私のおどりたい曲でよいとゆずってくれた。この時の、みんなのやさしさで私は反省した。自分のことだけではなく、みんなのことを考えて行動しなければいけないと思った。それからは、ダンスを踊る仲間にとっても、見てくださる人にとっても、最高のダンスにしたいと思って、準備を進めるよう心がけた。そうすると、みんなもダンスを楽しんでくれるようになった。いっしょにふりつけを考えたり、工夫したりしてくれた。みんなが一つになると、大きな力をはっきできることにおどろいた。私にとっては新しい発見だった。

能海は、いつも人のためになることを考えて行動していた。だから、きっと、たくさんの驚きや発見をしていると思う。そして、それが世の中のためになったと思う。わたしもこれから、たくさんの驚きや発見をして、世界で役立つ人になりたい。まだまだ能海にはほど遠いけど、少しでも近づけるようがんばりたい。

将来に生かすために

波佐小学校6年生 小田 友衣那

能海寛は、将来を見ていた。その力はだれにもある訳じゃない。もちろん今の私にもない。しかし、能海寛の生き方を学び、将来が見えはじめた。一つか二つ、それ以上の夢にあこがれる私は、能海寛のように「実現できる人」になりたい。

私は、助産師になりたいと思っている。たくさん勉強して知識豊かな一人前の助産師になりたい。本当は、算数と理科が苦手だけど、これから助産師になるために必要だからがんばっている。また、漢字は得意だから、たくさん勉強して、赤ちゃんの名前を書いてあげたい。

社会やパソコンの授業で、たくさんの場所とつながるための力をつけたい。とにかく、何でもやってできるようになりたい。今は、勉強の好ききらいがはっきりしているから、全ての科目が理解できるように努力を続けたい。

能海寛も、「全てが将来につながる」と思い、何でもやっていた。出納簿や、得度、学校に通う、波佐倶楽部を作るなど。本当に将来につながることもわからない。でも、能海寛の行動は、人のための行動だったことが分かった。だから、たくさんの経験をしてむだになることは一つもないということが分かった。私も、夢や目標に向かってあきらめず、努力し続けたいと思う。最後まで、続ける努力で将来に役立てられるようにしたい。

私は、能海寛の生き方から二つ学んだことがある。「何事も将来に役立っていく」ということと、「続ける努力」だ。私が今、能海寛から学んだことを、たくさんの人に広めたら私の学びを広げられる。勉強がが苦しくなっても夢のためにがんばっていくことが努力だ。また、自分に必要なことか分からなかったり、やりたくないものだったりしても、続けると「役立つ」と分かる。そのような努力があれば、明日、未来に生かしていけるだろう。子供だからと言わず何でもチャレンジし、続けていこう。能海寛

やたくさんの人に学んだことは必ず将来に生かしていきたい。

意志を曲げない男へ

波佐小学校 6 年生 橋本和樹

ぼくは、能海寛とは、どんな人なのかまったく知らなかった。すごい人なのか、何をした人なのか、知ろうともしなかった。しかし、調べていくうちに、能海寛という人にあこがれていった。

能海寛は、「堪忍大事なり」という言葉を大切にしていた。こらえること、どれだけ腹が立っても、いつも冷静でいなくてはいけないという意味。ぼくは、おこりはしないけれど、腹が立ってしまう。能海寛は、常に冷静でいた。たとえ自分がチベットの首都ラサに行けないと分かってもあきらめることなくたくそうとした。ぼくは、常に冷静で、自分の意志を曲げず、夢のために進みつづける、能海のような器の大きな人になりたい。

ぼくの夢は、料理人になることだ。おいしいごはんを作って、たくさんの人に食べてもらいたい。ぼくは、料理を作るのも好きだし、食べて、よろこんでくれる人の姿を見るのが好きだ。実際にたくさんの料理を作ることができるわけでもないし、美味しい料理をつくることができるわけでもない。能海は、小さなころからいろいろな国に行くのが夢だった。そのために体もきたえていた。それが役立ち、チベットの近くまで行くことができた。能海が小さいころから取り組んでいたことがつながったのだと思う。だから、ぼくも、今はできなくても、好きな料理作りを続けていこうと思った。続けたからこそ、能海はあきらめない心を身につけたと思う。ぼくもそうでありたい。

ぼくは、能海から見習いたいことがたくさんできた。全部できるようになるのは、とっても大変なことだ。しかし、一つ一つ学んでいけば、それが生きていく中で将来につながっていくはずだ。能海寛という地域の偉人を追いかけていくつもりで、これからもがんばっていききたいと思う。

あきらめずに努力する

波佐小学校 5 年生 奥本奏互

ぼくは、能海寛から学んだことがたくさんある。その中で一番心に残ったことは、あきらめず努力することだ。ぼくにとって、「あきらめない」と「努力する」は、つながっている。あきらめずに努力することが、目標や夢につながり将来に役立つからだ。

能海寛は、チベットの経典を持ち帰ろうとしていた。しかし、チベットの人たちからはスパイだと思われていた。だから、チベットに入らせてもらえなかった。能海寛のつきそい人は重慶に帰った。しかし、能海寛はあきらめなかった。「仏教を広めよう。」という強い思いがあったからだ。経典を持ち帰るという夢はかなわなかった。だが、能海寛が残した資料は、今の世に伝わっている。ぼくたちにとって、バトミントン習っている。時々チームメイトとけんかしてしまう。それが続くと、やめたいという気持ちになってしまう。でも、立ち止まって考えると、やめたいという思いが出るのは、ただチームメイトのせいにしていて自分が逃げているだけだった。しかし、能海寛は、どんなにつらい事がっても、夢をあきらめなかった。その強い思いを、ぼくは見習わなければならないと思う。ぼくは、あきらめないことは何事にも通用すると思った。

能海寛は、自分の夢に向かって努力し続けていた。夢に向かっていく途中でいろいろな、こんな人があったけれど、夢を追いつづけた能海寛を、ぼくは、そんけいしている。ぼくは、能海寛のように何事にもあきらめず努力する大人になりたい。そして、次の世代にも能海が残した物やすごさを引き継いでいきたい。

能海寛と私の夢

波佐小学校 5 年生 河崎 葵

私は、学習をしているうちに、能海寛にあこがれていきました。なぜなら、南條文雄もなしとげることのできなかつたチベット仏教の本を手に入れ、それを英語にほん訳したからです。そして、能海寛のほん訳した書物は、今も能海寛のふるさと金城町波佐にある。能海寛資料館に残っています。

能海寛の夢は、「チベットに行くこと」でした。そのために、富士山に登ったり、サンスクリット語を学んだりしてから、チベットへと出発しました。でも、チベットのラサに入ることはできませんでした。でも、チベット仏教の本をほん訳して、正しい仏教を世界に広げたい!!という一つの大きな夢を果たしました。

私の将来の夢は、「看護師」です。小さい時からお世話になっていて、大きくなるにつれて、看護師へのあこがれも大きくなっています。そして今は、看護師になるために、人体に関する本から、体のつくりなどを学んでいます。私は、看護師の資格を取ったら、まず一番お世話になった波佐診療所で働きたいと考えています。なぜなら、そこで働いて、私たちを自分の子供と同じように育ててくださった人々に「健康を守る」という行動で恩がえしをしたいからです。私は、できるだけお医者様への負担が減るようにすばやく動いて、少しでも多くの人々のけがや病気を治したいです。「好きこそ物の上手なれ」という言葉があります。私は、「看護師になる」という夢をかなえるために、家の手伝いをしています。

二人の夢に共通する点は、夢のためなら、どんな努力も惜しまないところだと考えています。これからも努力して人々に好かれる看護師になりたいです。

私があこがれる能海寛の故郷波佐の人々に知られていないことはさみしいです。だから、たくさんの人に能海寛はすごい人だということを知ってほしいし、私も伝えていきたいです。

夢を追い続けた能海寛

波佐小学校 5 年生 竹田 さくら

能海寛は、チベットに行くまで、たくさんの努力をし、夢を追い続けた。11 才で旅に出て、大学に行き、仏教を若者たちに伝えた。一つ一つの経験が、将来チベットに行くまでの道につながっていた。私は、その能海の生き方から、たくさんの学びを得た。特に心に残ったことは三つある。

一つ目は、「何にでもチャレンジする」ことだ。能海寛は川でウナギを捕ったり、ホテルを捕まえたり、読書をしたりするなどいろいろな経験をしていた。11 才で旅に出たこともすごいチャレンジだと考える。

二つ目は、「書く事を大切にしていた」ことだ。能海はたくさんの書物を残している。だからこそ、能海の思いが今も私たちに届いていると思う。

三つめは、「夢をもつ」こと。能海は自分の夢に向かって、ずっと努力してきた。だからこそ、正しい仏教を世界に広めることができたと考える。

私は、今陸上をしている。陸上大会に向け、まず目標を決めて、それに向かってがんばって練習をしている。能海ほどではないかもしれないけど、目標をもって、それに向かって努力する姿は、能海と少しだけ似ていると思った。そう考えると、今まで遠いとおもっていた能海が存在が少しだけ近くなったように感じられた。

この勉強を始めるまで、私は、「能海寛」のことを全く知らなかった。今思うと、初めに「能海寛のことを知っていますか。」と問われたとき「知っています！」と自信をもって言えなかつた自分が情けなく感じる。でも、能海について学んだ、今なら自信をもって答えることができる。「知っています！」と。

私は、波佐の人は能海のことを知らなければならぬと感じている。私は、学校の先生になりたいと

いう夢をもっている。能海のようにになりたいという夢をもっている。能海のように目標に向かって努力し、夢を実現したい。そして、能海のことをたくさんの人に伝えたい。

だれにも負けないヒーローのすごさ

波佐小学校5年生 松川寧心

「チベット探検家 能海寛」を読んで、私は、能海寛をすごい人だと思った。

その理由は5つある。

一つ目は、ホテルの光を使って、本を読んでいたからだ。昔は電気がなかった。でも、能海はホテルの光を使ってまで勉強をしていた。だから、チベット仏教を世界に届けることができたと思う。私も、能海さんのように勉強をして、将来、自分の夢である「保育士」になれるようがんばりたい。

二つ目は、本をたくさん読んでいるからだ。能海は小さいころから、たくさんの本を読んでいた。だから能海は大人になって、いろいろな書物を残したと考える。だから、私も本をたくさん読んで、自分の考えを残すことができるようにしていきたい。

三つめは、子どものころから船に乗るお金や食事手代などをきちんと記録していたからだ。私は、書いたことがないので、今年はお年玉などを記録してみたい。

四つ目は、いろいろな道を歩んでいるからだ。勉強、運動、遊び、読書、ぼうけんなど。いろいろなことを経験している。それが、将来につながっていた。だから、私もいろいろなことを経験したい。

五つ目は、がまん強いからだ。チベットに行けず日本に帰るよう勧められたときも、「堪忍大事なり」という言葉を思い出して、あきらめなかったところが、かっこよかった。私は、今、陸上やバドミントンをしているので、がまんづよく練習したい。

このような能海のすごさを知って、私は、だれにも負けないヒーローだと思った。私も、能海のように、何事にもあきらめず努力していきたい。

最初にも書いたが、私の夢は、「保育士」だ。やさしい先生になって、保育園に通う子どもたちを明るく元気にしていきたい。そして、笑顔があふれる保育園にしていきたい。

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

浜田市立波佐小学校第3学級(5・6年生) ふるさとの偉人学習

(指導教諭) 中川貴如

事前学習：まんが『西藏探検家 能海寛』を教材に事前学習で読書する。(10月上旬)

輪読：授業で各自役割を決めて、輪読する。(10月11日)

出前授業：パワーポイントによる「能海寛」の授業(10月15日)

金城資料館見学：歴史民俗資料館・能海寛資料の見学会(10月23日)

発表の取組：学習発表のための資料作りと立上げこ(10月24日～11月10日)

学習発表会：「能海寛と夢」を学習発表会で発表(11月11日)



